

*「ポレーシェ」とは チェルノブイリ付近の湖沼低地帯をいう



「革命の話しよう！」 6.1「日本を といもどす マツリゴト day」@ 白川公園

♪知らないの？
人々は、「革命」の
話をしているんだ
よ。ささやくように
ね。

…生活保護を
受け取る列に並び
ながら。…失業給
付の列で時間をつ
ぶしながら。…貧
しい人々が立ち上
がり、自分の取り分を取り戻す。…あなたも走ったほうがいい。

走った方がいいってば…。とうとう状況が変わり始めている。

トレーシー・チャップマン（アフリカ系アメリカ人、女性フォークシンガー）の曲「Talkin' Bout A Revolution」にあわせ、三宅洋平が問いかける。

♪みんな聞こえるかい？ そう、口々につぶやき出したんだ。それはまるでさざ波のように。♪

「マツリゴト day」に集まったミュージシャン達は、思い思いの楽器を打ち鳴らしそれに応える。

原発・TPP・集団的自衛権・秘密保護法・憲法九条・貧困・差別・食の安全…。会場には、70 を超えるブース（マルシェ）で、平和・くらし・いのちについて熱く語り合う市民がいた・こんなにも長い時間、こんなにもたくさんの人々が、議論しあい、笑いあった時が今までにあったらどうか…。意見はそれぞれに違っても、皆が同じ方向を見つめていた。子ども達の未来を熱く語っていた。

セッションの余韻は長い列のパレードとなり、ささやきはいつしかハッキリとした言葉となって、名古屋の街に繰り出していった。もう、人まかせにするのはやめよう。決めるのは私たち！（神野）

〒466-0064 名古屋市昭和区鶴舞 3-8-10 愛知労働文化センター B1

NPO 法人 チェルノブイリ救援・中部

銀行 名：三菱東京 UFJ 銀行 名古屋営業部（店番号 150）

口座番号：普通 6949211

口座名義：特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部 理事長 原 富男

郵便振替：00880-7-108610

TEL / Fax：052-732-7172（月・水・金 10:00 ~ 17:00）

ホームページ：<http://www.chernobyl-chubu-jp.org>



チェルノブイリ救援中部

今、私たちは歴史上の大きな転換点に立っている。福島第一原発事故を経験し、原発のない社会を目指すのか、それとも再稼働をゆるし、なおも原発依存状態を続けるのか。第二次世界大戦での犠牲に学び、二度と戦争をしないと決めた憲法を、なし崩しに形骸化させて、再び戦争のできる国に向かうのか。民意を反映しないこの国の政治をどうしたら良いのか、すべての人々が今問われている。6・1の目標は「決めるのは私たち」である。これは民主主義の原点でもある。その際に、考えなければならないのは、何を判断の基準とすべきか、「そもそも」からの発想である。

「原発」のそもそも

日本で本格的に原発が運転を始めたのは、1970年の大阪万博の年である。若狭湾の美浜1号（加圧水型）と敦賀1号（沸騰水型）が商業運転を始めた当初から、放射性廃棄物は議論の対象だった。政府や電力会社や原発推進派は、「技術の進歩でいずれ何とかなる」と主張して来たが、40年以上経た現在もその答えは見つからない。日本だけでなく、世界の原発保有国は同じ困難を抱えている。そもそも、放射性廃棄物を人間の寿命をはるかに超える10万年以上、安全に保管できるはずもないのである。かつては、「廃棄物をロケットに乗せて太陽に打ち込む」などと、馬鹿げた議論をする専門家もいた。「加速器を使って廃棄物の短寿命化を図る」という議論は今もある。いずれも、理論的には可能だが現実的には不可能であり、無責任な主張である。原発推進派は、利益を享受しながら自ら責任をとることを避け、負の遺産はすべて先送りし、未来世代につけを残すことで生き残ってきたのである。「福島県内の汚染廃棄物を30年以内にすべて県外に持ち出す」というのも、政治家や官僚の目先の点数稼ぎのための空約束である。もう、こうした絵空事には見切りをつけ、原理的には「すべての汚染物は東京電力が引き取るべき」と、割り切るべきである。

「平和のための戦争」のそもそも

過去の歴史を紐解けば、洋の東西を問わず、すべての戦争は「国民の安全のため、国を守るため」と主張され、正当化されてきた。国民の経済的格差の不満解消に利用されることもあった。しかし、勝者・敗者にかかわらず、戦争に人命の犠牲はつきものである。そもそも、政治は国家間の無駄な争いを避け、平和的に紛争を解決するのが役割のはずである。しかし、往々にして政治家は、背後にある財界や利益集団のために戦争を正当化し、国民を欺いてきた。危機をあおり、紛争を拡大することで、自らの存在感を誇示できるからである。かつてこの国は、根拠のない「強い日本」を梃子に太平洋戦争に突き進み、国内外の膨大な人々を犠牲にした。日本国憲法は、「そうした危険性を未然に防ぎ、我々は二度と戦争をしない」と、世界に向けて誓ったはずだった。しかし、今やこの精神は反故にされ、政府は「戦争のできる普通の国」を目指し、民意と離れた暴走状態にある。よく話題になる「尖閣列島」の問題は、そもそも日本による国有化が原因だった。政治が役割を混同し、目的を見誤ったからである。

「今の政治に、国の未来を任せることはできない」と覚悟を決めよう。

「決めるのは私たち」である。

2014年5月31日（河田）

「美味しんぼ」の鼻血問題について

「美味しんぼ／福島の実態編」が、波紋を広げています。「放射能」と「鼻血や疲労など」の因果関係は、原子力利用の善悪に対する根本的な意見の相違により、「疫学的調査」の結果や、「低線量被曝」「内部被曝」の評価に、全く異なる結論を導き出します。しかし、真実は一つです。

「チェルノブイリ救援・中部」は、私たちが20年以上続けてきたチェルノブイリ（そして福島）の支援活動を通じて、実際に見聞きした事実を、発信し続けます。

以下に、私たちが活動を始めた頃（1991年末）、チェルノブイリ事故被災地ジトーミルの小学校の二ーナ先生から、金沢市のエッセイスト水野スウさんに届いた手紙を紹介します。

【「マザーto マザー」（政治家にも 記者にも 医師にも 科学者にも 書けないウクライナ）より】（J）

* * * * *

1991年12月19日

こんにちは、尊敬するスウ！

12月16日にあなたの手紙を受け取りました。とても嬉しかったです。ありがとうございました。何せ、良い方々とお知り合いになるということは、それは運命からの贈り物のようなものです。そして私は、この贈り物に、あなたの素晴らしいお手紙に、感謝します。

私のことを友達と呼んでくださって本当にありがとう。涙が出るほどその言葉は、私を感動させました。そうです。私たちみんなは、一つの惑星、地球の子どもなのです。そして、私たちの太陽は、皆のものなのです。私たちが、距離を隔ててもお互いに手を差しのべあうというのは、何と素晴らしいことなのでしょう。「友情と善良さが世界を救う」と言います。私たちの善良さが心から心へ次々と波のようにいきますように。そして地球が、そのために幸せになりますように。

1991年の夏、ジトーミル市に《チェルノブイリ中部》の代表団が、訪れました。私たちは、（私と私の生徒の小さな芸術家たち）は、その会合に招待されました。そこで、大人たちに交じって12才の日本の女の子がいたのです。

「あなたのお名前は、なんていうの？」 私たちのオーレンカが尋ねました。

「ちはる（千春）よ」

と、小さな女の子は答えました。

そして、二つの小さな手は、友情の抑揚の中で握りしめられました。そして、それがあまりに素晴らしい握手だったので、大人達も幸せそうに微笑みました。

そうです。私たちはチェルノブイリの暗い影の下で、全世界に響く哀しみに沈んだ鐘の下で生きています。でも、最も恐ろしく不公平なのは、私たちに大変長い間、知らされないままにされていたということです。悲劇の1986年にも私たちは、自分達の子どもに放射能で汚染されたミルクを飲ませたり、野菜や果物を食べさせていたのです。畑で働き、すでに汚染された地上を裸足で歩いたりしたのです。私達の子ども達は、草の上で、とんぼ返りをうったり、砂で家を作ったりして遊んでいました。私は母親です。と、同時に女教師です。私には致命的なチェルノブイリの灰を浴びた自分の息子達や全ての子ども達が痛いほど憐れです。

そうです。私の生徒たちは鼻から血を出しています。（それは、彼らの絵で貴方はご覧になったでしょう。）こちらの子ども達は、



〈ナターシャさん（1991年当時12才）が描いた「ともだち」〉

とても弱々しいです。でもそれにもかかわらず、彼らの健康を強くするようなどんな薬もありません。その上、子ども達の食事内容は悪いのです。もちろん、私たちは最悪という訳ではありません。私たちよりずっと悪い状態の地方もあります。そこは、全く人の住めないところです。しかし住んでいるのです。

チェルノブイリのことがあって、世界で私たちは知られるようになりました。でも私たちには、チェルノブイリだけではなく、経済上や全てにおいて、進行しつつある危機という苦しみもあるのです。そして、5,300万人の住民とともに、独立国家としてウクライナが承認されたという喜びは、ウクライナが病んでいるということ、哀しみに沈み貧困である（からっぽの店、パンを買う為にさえ終わりの無い順番に立たなければならない。他の物を買う為にはいうまでもない）ということによって、そこなわれてしまっています。多分あなたは、どんなに恐ろしい事か、特に私たち普通の人々、子ども達にとってどれほど苦しいことか想像もできないことでしょう。

私が朝学校に行く途中、私の小さな生徒達は、小雀の群れのように私に向かって飛んできて、何か困っていた事を言うのです。

「あっ！ 私、また鼻血が出たよ」

「私は、夜、足が痛んだよ。」「私は、頭がグラグラしたよ。気分がとても悪かったよ。」

……私は彼らに何と言えるでしょう。どう慰めることができるでしょう。私に何ができるでしょう？ 子ども達の気持ちを落ち着かせ、でも心は涙でいっぱいです。

度々、私自身が半病人で、仕事に出ます。一方、子ども達はとても観察力が鋭く、更に“心理学者”です。

「先生、今日はどうして憂鬱そうなの？」子ども達は尋ねます。

「お天気のせいですよ、暗いお天気ね。」私は答えます。天気なんて関係ありませんが。

そのため、私たちは喜びを探します。例えば良い事です。今、子ども達は絵やアプリケを作っています。ラドムィシリ市（ジトーミルとチェルノブイリの間で、ジトーミルより4分の1程チェルノブイリに近い所にある。）から来た、私たちの知らない9歳の致命的な病気の男の子の治療のためのお金を集めるために、それを売っています。もちろん私たちは、わずかなお金しか集めることはできません。本当に印ばかりです。でも、これが全体の慈善事業の一部になるのです。多くの人が、皆一緒に援助するでしょう。

私たちは、このようにあなたの手紙に、東シゲノさんと彼女の小さな生徒さん達（愛を込めて、折り鶴ちゃん達と呼んでいるのですが。）からの手紙に喜びを感じます。

どうやら、私たちの周りには、喜びがたくさんあるようです。日々が私たちの生活を飾ってくれます。肯定的な情緒は、体のすみずみの抵抗力を高めてくれます。私たちにとって、自分自身の内なる力の他は何も期待できません。私たちの所は今、大変苦しいです。私たちは飢えと闘っています。今、“確か”ということがありません。この手紙が、宛名に届くかどうか分かりません。

私たちの子どもアンサンブル《コオロギ（ロシア語ではスヴェルチキ、ウクライナ語ではツヴィルクーニ）》は、音楽と歌と踊りのアンサンブルです。それは子ども達にとってクラブなどで出演することで、周りの人達と分け合うことのできる“生きる喜び”です。レパートリーには、（それはかなり広いのですよ）チェルノブイリについての詩があります。私たちは、“「平和な」原子力”と名付けられた詩で闘っています。ノーモアチェルノブイリです。私の生徒達は、ドブロンラヴォフの詩を読みます。

今のところ 惑星は生きている。

今のところ 鳥達は春を夢みている。

今のところ 遅くはない。

私たちがこの地球を 星々の希望の下で 救うことを誓おう

私たちの素晴らしい家である この惑星を救うことを

今まだ 遅くはないうちに！

この詩は、地球の命のために闘っている、貴方がたの活動と相通じるところがあります。原子力発電の放射能の灰から子ども達の命を守ることは、母親の義務です。貴方の崇高な意図が成功するように祈ります。

ついながら、我がウクライナは、ケーキに干しぶどうを詰めるように、原子力発電所が詰められています。しかも、原子力発電から得たエネルギーは、西ヨーロッパへ外貨獲得のために売られて、ウクライナは何も得るところがなく、収入は全て中央に持っていかれてしまっていました。そのお返しにチェルノブイリがあった訳です。

私たちは、《チェルノブイリー中部》の善良な人達に、その真実のある援助に、ジトームルに来てくださった事に、そして同情してくださった事に、感謝します。貴方には、個人的にも素晴らしいお手紙を書いてくださった事に感謝します。善良な言葉も傷を癒します。私達もまた広島と長崎の事を知っていて、その恐怖を理解しています。それは、全地球の哀しみです。私は、来る年も来る年も、自分の生徒達に日本のその都市の悲劇について語っていました。専門家は、チェルノブイリは広島・長崎級爆弾の9つ分だと言っています。でも、私達はまだ生きています。そして生きぬく事を望んでいます。何故なら、全ての人々と同じように、現世の生活を愛しているのですから。

私達の教室では、日本についての展示品コーナーがあります。各展示品は、私達にとってとても貴重です。それは、富樫小学校から来た折り鶴です。まるまる千羽もあって、私達の大好きなシゲノと彼女の生徒達からの贈り物です。また、同じく彼らから来た奇跡のように素晴らしい本も貴重です。私達の所には、シゲノの生徒達の多くの写真があります。

あなたがたの子ども達は、花のように魅力的です。私達は、あなたがたのお子さん達をほれぼれと眺めています。日本の子ども達は、自分達のために幸せな子ども時代を作った自分達の国を、誇りに思うことができると、私は言いたいです。そして、それについて私達も嬉しいです。

ご自分の家族について書いてくださってありがとうございます。私には、それは大変興味深かったです。あなたの小さなマイを抱きしめます。彼女の生活が、幸せで立派でありますように。あなたがたご両親の喜びでありますように。

私たちは、4人家族です。私と夫と、2人の息子です。夫は運転手で、キエフで働いています。1986年の5月に、彼は度々、死の都市、人々のいない都市、子ども達の笑い声の聞こえない、鳥達の歌の聞こえない都市を通りました。これはとても恐ろしい事ではありませんか、そうでしょうか？ 長男のローマ（18才）は甲状腺肥大を病んでいます。彼は、軍事医療委員会で審議中です。というのは、息子は兵役年齢になって召集状が来たのですが、私達は病気の為に、兵役免除になってくれるよう期待しているのです。

ごめんなさいね、親愛なる友達。でも、もしも、万一、あなたに可能な事であるのなら、そしてご面倒でなければ、甲状腺を治す薬（錠剤）を送れないでしょうか？ ごめんなさい、どうぞ後生だから。ごめんなさい。



〈右側が原千春さん。

左側奥から2人目がニーナ先生(1991年撮影)〉

これで手紙を終わりにします。私は多分、長い手紙であなたを疲れさせたことでしょう。金倉さんは、翻訳するのに一苦労したでしょう？

あなたの親しい人々に、全ての良い事、明るい事、素晴らしい事がありますように。

1992年の新年に、あなたに幸せと、成功と、喜びと、元気をお祈りします。

新年おめでとう。

さようなら

尊敬とすべての良い願いを込めて、ニーナ
貴方のウクライナからの友達より

南相馬便り

(神谷 俊尚)

☆汎用コンバインを購入しました！

昨秋播種した菜種は、年明け来生育が心配されていましたが、1ヶ所を除いてGW明けには見事に開花し、畑一面黄色で蔽い尽くされました。原町区萱浜地区では、恒例の「迷路」が今年は2レーン作られ、幼稚園・保育園の園児たちが歓声を上げて楽しむ様子を見ることができました。

昨秋以降の「コンバインキャンペーン」にご協力いただき、大変ありがとうございました。これまでに、ご寄附426万円、第5回タケダ・いのちとくらし再生プログラム助成金250万円の資金をいただきました。南相馬農地再生協議会申請の地球環境基金の助成金は不採用でしたが、4月の再生協議会定例会で購入を決定し、最終的な機種を選定・検討の結果『ヤンマーAG110CSMJ(新古品)(写真参照)』を選定し、5月17日定例会で承認、20日に契約をしました。

購入金額は1,015万円(不足金339万円は5年ローン支払い)です。5月31日(土)に納入され、とどけ鳥事務所前でお披露目をしました。6月には運転技術の講習会、7月収穫時に初仕事となります。今年の収穫は12.5haです。秋には南相馬産菜種油として、新デビューの予定です。ラベルのデザインは、相馬農業高校農業クラブの高校生が現在思案中です。楽しみにお待ちください!!



☆第7期 放射線量測定作業 完了

南相馬市(第7期)と、浪江町(第3期)の放射線量率マップ作成に向けた測定活動が、4月19~20日(地元のべ22名、各地からのべ23名)と、4月27~28日(地元のべ27名、各地からのべ21名)のボランティアにより実施されました。前半の2日間は寒風が吹く中、後半は天候に恵まれ、無事故で終了することができました。浪江町も順調に進みましたが、1ヶ所は土砂崩れ・通行止め等で、後日測定となりました。南相馬市と浪江町のマップは、6月上旬に発表できます。(速報は、P11を参照してください。)

☆とどけ鳥事務所の現状

とどけ鳥も新年度を迎え、ボランティア2名が新たな職場へと巣立って行き、入院中の1名は長期化が避けられず、一挙に3名減の厳しい状況となりました。幸い、女性1名が緊急的の応援に来ていただけることで、体制を維持しながらの運営を続けています。

「検体減少気味」の傾向は続いています。春になり事務所内は山菜の香りが充満しています。ふきのとう・よもぎ・タラの芽・ぜんまい・たけのこ・ノビル・行者にんにく・ふき・わらび…。各々、収穫場所により汚染度は1000倍以上の差があります。決して安心して食することのできるレベルではありません(詳しくは、とどけ鳥ブログを参照してください)。秋のきのこ類、春の山菜、測定結果表を依頼者に渡すと、悔しそうに悲しくされる顔を見るたびに、胸が締め付けられます。明るい話をひとつ、5月末にボランティアスタッフが出産予定です。全員が楽しみにしています。次号では、かわいい赤ちゃんをご紹介します。

☆南相馬市の状況

南相馬市の現状(市発表4月15日現在)をお伝えします。(震災前市内人口約71,000名)

- ・市内居住人口：51,979人(出生及び転入者2,907人、他市町村からの居住者1,966人を含む)
- ・避難状況：市外避難者13,836人 市内仮設住宅入居者5,361人、市内借上住宅等入居者6,473名
- ・除染関係：生活圏除染市事業(鹿島区・原町区)実施19%、国事業(小高区・原町区1部)実施発表なし(ごく1部の農地から着手)。完了目標は、市・国ともに平成28年度末。
- ・保育園・幼稚園 幼児の在籍状況

	震災前園児数	H26.5.1	対震災前
保育園	1,142人	493人	43.2%
幼稚園	1,198人	501人	41.8%

ドイツ・ウクライナ訪問によせて

(杉内 清繁)

2月7日から10日間の日程で、ドイツ・ウクライナ2国を視察研修してきました。

訪問に当たっては、ウクライナの国内情勢が紛糾の事態に直面していることも心配しながらの出発となりましたが、視察の視点は、福島原発事故3年を迎えた私たちの地域が、同じ原発事故から28年を迎えるチェルノブイリの爪痕の現状を通して、自分たちの置かれている状況において、どの様な問題点と対策が考えられるのかを確かめること。今後の取り組みの糧となることを期待して臨みました。

研修日程は、ドイツ バーデンヴェルテンベルグ州でバイオエネルギーに取り組む、人口450人のマウエンハイム村から始まりました。ヨーロッパでは、ドイツがいち早く脱原発を打出し、国内の各地域(市町村単位)が主体となり、不足の部分は国が支援する制度での取り組みでした。「補完性原理の重視」というそうです。



〈ドイツ・マウエンハイム村の
バイオエネルギープラントを視察〉

主体となるバイオガス部門では、原料となる草(トウモロコシ)が全体の2/3、家畜糞が全体の1/3の割合で、年間14,000tの原料を、村半径10km圏内にある15軒の農家が対象となって、面積にして500haのバイオガス専用圃場が確保されている状況でした。原料の収穫は、5月と10月が適期となり、6人の従業員による30日間の従事日数で、作業を進める内容でした。また、ガス発電装置については、780kwの発電能力の機種が2台稼働し、電気とエンジンからの温湯も給湯として利用。他、給湯・温湯暖房の補完的木質チップを原料とするボイラー装置も、今後有効なシステムとして活用が期待される面が多くあると感じました。

ウクライナの人口400万人の首都キエフには、現地9日、17時頃到着しました。街中は、思いのほか平穏に見え、また予想よりもあたたかく感じました。6日間のウクライナでの滞在は、チェルノブイリ原発の現地視察に始まり、事故による生々しい情景(28年目に当たる今も、誰もいない中に不気味に残る多くのコンクリート建造物や、森の中に朽ち果てた住居)を目にすると、言葉には表せない程の衝撃を受けました。そして、心と自分たちの地域のことも頭に浮かび、悲しく思えてなりませんでした。

鎮魂のモニュメントと、凄然と2列に立ち並ぶ村の名が刻まれた94個の碑には、退去を余儀なくされた多くの村人が、「もはや、放射能汚染での生活は、ここが最終の幕引きだ」と叫んでいる様に見えてなりませんでした。研修の終盤を迎えながら、チェルノブイリ原発事故後のナロジチ区に於いての農地再生等の取り組みも、福島原発事故で汚染された地域の再生に向けた取り組みも、共通する点は、多々あった感じました。今回の現地視察を通じて得た見聞は、まだ先の見えない中であっても、前向きに取り組む糧として、また研修最終日に見た、あのウクライナの大地に輝く素晴らしい夕日を想いだすと思います。

今回の研修で、行動をともにしてくださいました皆様、また企画等の支援をしてくださいました皆様に、深く感謝申し上げます。



〈南相馬農地再生協議会の
杉内さん〉



〈ジトーミル農業生態学大学で、
プレゼンをする杉内さん〉



定期総会&チェル救デーのご案内

■ 日 時 6月28日(土) 午後 1時30分 ~ 4時30分

■ 場 所 ウィルあいち 1階 視聴覚ルーム

地下鉄「市役所」駅 ②番出口より東へ 徒歩約 10 分

【 第 1 部 】 2014年度 定期総会

2013 年度 活動報告 および 2014 年度 活動計画

【 第 2 部 】 チェル救デー

原 富男さんの福島県郡山市での、3か月に及ぶバイオガス工事のお話や、神谷 俊尚さんによる、3年目に突入した「放射能測定センター・南相馬(とどけ鳥)」の活動報告などを行います。

また、南相馬での菜の花プロジェクトの映像などもご紹介します。
どうぞお気軽にご参加ください。お待ちしております。

チェルノブイリ/フクシマ講座<第8回>開催のご案内

福島から避難・その3年の日々

お話：伊藤廣昭さん（南相馬市から名古屋市に避難）

7月19日（土）ウィルあいちセミナールーム1

〈地下鉄市役所駅 ②番出口より 東へ徒歩 10 分〉

参加費 500 円（お茶菓子つき）

●事務局にお申し込みのうえ、ご参加ください。

信州 伊那谷 親子リフレッシュツアー 今年もやります！

日程：7月26日（土）～7月29日（火）

場所：長野県 伊那市 長谷溝口「溝友館」

カンパならびにボランティア募集のお願い

2011年3月11日の東日本大震災では多くの方が被災し、3年を経た現在でも復興の見通しが立たず、生活に支障を来している状況にあります。特に、原発事故のため故郷を離れざるを得なかった方々は、放射能の健康への影響に不安を抱きながら、仮設住宅で暮らしている方も多くいらっしゃいます。チェルノブイリの経験からも、放射能の影響は、発達段階の子ども達により大きくもたらされると懸念されています。私どもは、不安やストレスを少しでも和らげる支援として、福島県および影響を受けた地域の親子を伊那谷にお呼びする「伊那谷親子リフレッシュツアー」を計画しております。

昨年のツアーは、福島県南相馬市を中心とする親子が参加し、「放射能のない自然生活」を満喫しました。この「子どもリフレッシュ交流事業」の実施に当たり、実行委員はすべてボランティアで参加しております。今年は昨年に比べ、バス代が倍近くに値上がりしました。当面、50万円程度の資金が必要になります。被災者の皆様のご負担を極力減らすためにも、各方面からのカンパに頼らざるを得ません。つきましては、誠に恐縮ではございますが、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



なお、期間中の食事作り・救護・運転・世話などのボランティアを募集しておりますので、下記お問い合わせの上、ご参加いただきたくお願いいたします。

〔振込先〕 ゆうちょ銀行 普通口座

記号 11120 番号 24082951

口座名義人 伊那谷親子リフレッシュプロジェクト

〔問い合わせ先〕

事務局 長野県上伊那郡南箕輪村9955-2 原 富男

TEL 0265-73-9355

メールアドレス hara0322@deluxe.ocn.ne.jp

【2013年夏 リフレッシュツアーの感想 ひとこと】.....

とびこみをまたやりたい!! (小3) /山で川に入ったことが楽しかったです。幼児(親代筆) /長野の人はとても優しく、思いやりのある人ばかりでとても楽しかったです。これからもこのやさしさで日本中を幸せにしていってください。とても良い思い出になった。ありがとう!! (中2男子) /長野はとてもいいところで楽しめました!! ライブとても感動的でした! 素敵な歌をありがとうございます。(中3女子) /とてもよいとこで楽しかったです。イランイラン(ハーブ)の香りがよかったです。思い出になります。(中2男子) /長野にまた来たい 最高(中2男子) /ごはんむっちゃおいしかった。(中3女子) /みんなであそんだりしてたのしかったです。またみんなできもだめしをしたい。(小3女子) /マダム、超かわいかった。空牙もかっこよかった(馬とポニー)。(中2女子) /長野ツアー最高~! 長野の人ありがとう。すごくいい思い出になりました。まじ Thank you ~! (中1男子) /ネギおもしろかったぜ~www あの優しさをいつまでも ありがとうネギ~(Y) /また川に入って遊びたい!! (小3女子) /この長野のキャンプがおもしろかった来年も来たい。(小5男子) /ネギちゃんからおそわった「ネギ四方八方なげ」全部楽しかった。(小4男子) /



測定隊が行く

4月26日からの「南相馬市第7期（第15次）放射能測定活動」に加えていただき、貴重な体験をすることができました。4日間のため、測定以外にも被災地の状況や菜の花畑などを見学することができて、大変勉強になりました。

ポーシェの読者であり、時々振込をする程度でしたが、今回の4日間で、理事や事務局の方とも気さくに触れ合うことができ、「チェル救」の活動を身

近に感じることができました。

福島は、3年の経過により他の県では余り報道されなくなり、どうなっているのかと気になっていましたが、地元の新聞「福島民報」は、毎日一面に原発関連記事を大きく取り上げており、原発の影響は大変だと再確認しました。

放射能の数値は下がりつつあるとはいえ、昼間の帰宅制限が解除された小高地区や浪江町には、除染作業員以外に人の姿が見えず、今後どうなるのか本当に心配です。

衝撃的だったのは、広大な「希望の牧場」に放たれた100頭以上もの殺傷処分を免れた牛たち。奇形になった角を持つ牛が我々の方を見て、「人間は何という事をしてくれたんだ」と悲しそうな目で訴えているようでした。また、原発まで3km地点という双葉町の近くでは、壊れた家も流された舟も手つかずの状況で、荒地の中に置き去り状態。水仙の花が壊れた家の横に咲いていました。

測定の時に運転を担当してくださった現地の方から、道中いろいろな話を伺いました。小高地区に住んでいたが、避難命令により今は仮住まい。震災以来ボランティア活動を続けているという。同心円での補償金の振り分けにより、同じ被害を受けたのに貰える人と貰えない人があり、地域の分断が起こっているという、お金が絡む悲しい現実もお聞きしました。2020年には東京でオリンピックを開催することになり、福島も原発事故も、他県の人からは置き去りにされつつあるのではと思います。「菜の花プロジェクト」も含めて、福島の住民を支援し、復興を願って活動している「チェル救」の人達の地道な活動がますます広がることを願い、できる範囲での協力をしたいと思っています。本当にありがとうございました。（長野県 中村守男）

忘れない 伝える 続ける つなぐ

3.11以降は「知る」努力をしたつもりでしたが、まだまだ知らないことが一杯ありました。

測定2日目は、南相馬市鹿島区育ちの高野さんとご一緒しました。高野さんは、各測定地付近の津波の状況を語ってくださいました。荒野と化した田んぼを見渡すと、墓と鎮守の森が点在しています。その数だけ集落があったのですが、家も人も家畜も全て流され、津波の威力と、犠牲者の多い南相馬の実情を知らされました。

チェル救さんのこれまでの活動経験が、福島でもいち早く生かされ、食材や空間線量率測定や菜の花プロジェクトを「住民と一緒に」展開されている。すごいですね。活動誌「ポーシェ」が、チェルノブイリと福島と私をつなぎ、挫けそうな心にスイッチを入れてくれそうです。

小林さん、高野さん、お世話になりました。また、お会いしたいです。（富士見町 嶋崎）



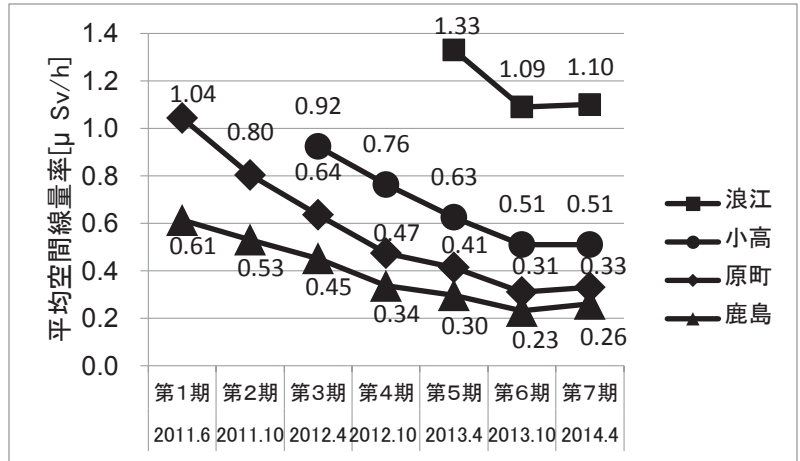
第7期(第14次・15次)空間線量率 測定結果

池田 光司

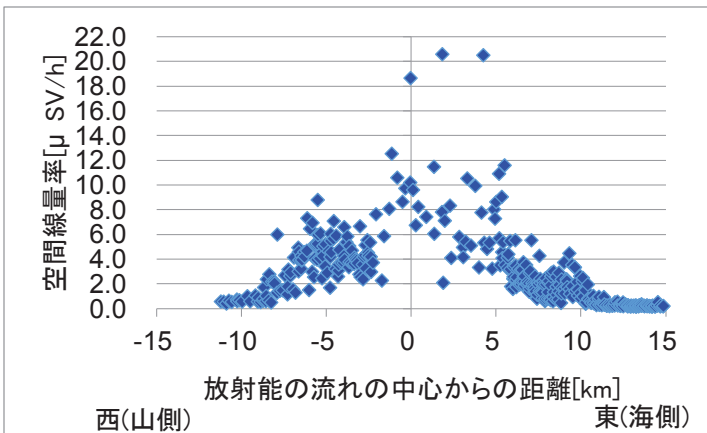
4月、第7期の空間線量率の測定が行われました。今回の測定では、今まで測定してきた区域に加え、浪江町の帰還困難区域も測定しました。

まず、今回の測定で明らかになったのは、【図1】に示すように、各地区が足並みを揃えるような形で、空間線量率の低下が止まったということです。昨年秋の測定までは、物理的半減期の約2倍の速さで空間線量率が下がってきていました。

なぜ、急に低下が止まったのでしょうか。残念ながら今のところ原因は分かりません。見かけ上の半減期を短くしていた要因が、セシウム137（物理的半減期30年）とセシウム134（物理的半減期2年）双方の、物理的半減期を半分以上短くしていたとすると、この3年間で、半減期の短いセシウム134の空間線量率への影響はほとんどなくなり、半減期の長いセシウム137が支配的になります。合わせて、半減期を短くしていた要因の影響が弱まると、一気に低下が止まったように見えることも考えられます。しかし、不確かな推測の域を出ません。次回の測定も合わせて、低下の傾向を確認した上で、原因を明らかにしていく必要があります。



【図1】地区別平均空間線量率の推移



【図2】浪江町の空間線量率分布(流れに直角方向)

【図2】には、浪江町の空間線量率分布のグラフを示しました。今回、帰還困難区域を東西方向全域にわたって測定することにより、分布の特徴がはっきりしました。グラフから分かるように、中心が高く、両側に下がる形をしています。中心は、測定データから計算して出したのですが、事故当時、ここを放射能の流れの中心が通ったと考えられます。

分析結果からは、放射能の流れが福島第一原発から西に12kmほど入った後、飯館村の方向へ向かったことが分かります。また、分布が対数正規分布という規則性を持った形に近いことから、地勢や線量の高さなどに関係なく、空間線量率は一定の割合で下がってきて、分布は事故当時のまま残ってきたと考えられます。今までの南相馬市の測定でも、同じ傾向がありましたが、その傾向が、今回の測定でよりはっきりしました。

事故当時の空間線量率の分布がそのまま残り、3年経った今、空間線量率が低下しなくなっているという、厳しい現実が現われた今回の測定結果となりました。

2013年度活動計算書(実績報告) (特定非営利活動に係る事業会計)

特定非営利活動法人チェルノブイリ救援・中部

自2013年4月1日 至2014年3月31日(単位:円)

《経常収益の部》				
(受取会費)	正会員受取会費	93,000	634,000	
	賛助会員受取会費	541,000		
(受取寄付金)	粉ミルク支援寄付金	338,800	10,423,720	
	チェルノブイリ被災者支援寄付金	214,300		
	ナロジ菜の花プロジェクト寄付金	14,000		
	福島原発被災者支援寄付金	371,950		
	福島菜の花プロジェクト寄付金	4,317,549		
	使途指定なし一般寄付金	5,167,121		
(受取助成金等)	宗教法人真如苑	1,625,000		6,507,000
	三井物産環境基金	1,668,000		
	日本郵便(株)年賀寄付金	3,214,000	1,205,615	
(事業収益)	福島支援事業収益	792,850		
	啓発事業収益	339,505		
	イベント関連事業収益	73,260	256,482	
(その他の収益)	雑収益	250,864		
	為替差益	3,464		
	受取利息	2,154		
経常収益合計			19,026,817	
《経常費用の部》				
【事業費】			15,631,299	
(人件費)	給料手当・日当	1,106,000		1,106,000
(その他経費)	業務委託費	1,848,723		
	支援金	3,598,087		
	印刷製本費	1,553,915		
	諸謝金	60,728		
	会議費	124,366		
	旅費交通費	3,421,368		
	通信費	122,856		
	荷造運搬	439,945		
	消耗品費	60,704		
	地代家賃	1,140,000		
	水道光熱費	113,204		
	賃借料	45,800		
	減価償却費	1,477,361		
	新聞図書費	156,000		
	支払手数料	54,079		
	雑費	243,719		
	為替差損	64,444		14,525,299
【事業費 合計】				
【管理費】			3,396,116	
(人件費)	給料 手当	1,940,090		1,940,090
(その他経費)	通信費	129,666		
	荷造運賃	57,445		
	水道光熱費	3,690		
	旅費交通費	59,440		
	会議費	150		
	消耗品費	326,107		
	印刷製本費	98,175		
	修繕費	35,766		
	地代家賃	600,000		
	租税公課	50		
	諸会費	30,000		
	支払手数料	38,056		
	減価償却費	26,250		
	雑費	51,231	1,456,026	
【管理費 合計】				
経常費用合計			19,027,415	
当期収支差額			-598	
《収支差額の部》				
	【当期正味財産増加額】		-598	
	【前期繰越正味財産額】		10,866,694	
	【当期正味財産合計】		10,866,096	

※今年度はその他の事業を実施していません。

財務諸表の注記

1. 重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会)によっています。

(1) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定率法で償却をしています。

(2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込経理方式によっています。

2. 事業別損益の状況

事業別損益の状況は以下の通りです。

科目	医療 機関 支援 事業	粉 ミル ク 支 援 事 業	被 災 者 団 体 支 援 事 業	ク リ ス マ ス カ ー ド 事 業	ナ ロ ジ チ 再 生 の 花 ブ ロ ジ ェ ク ト	業 務 委 託 事 業	通 信 誌 発 行 事 業	イ ベ ン ト 関 連 事 業	派 遣 事 業	福 島 原 発 被 災 支 援 事 業	啓 発 事 業
I 経常収益											
(1) 受取寄付金		338,800	214,300		14,000					4,689,499	
(2) 受取助成金等								200,000		6,307,000	
(3) 事業収益								73,260		792,850	339,505
(4) 為替差益									3,464		
(5) その他収益								42,531	50,000	62,856	
経常収益計	0	338,800	214,300	0	14,000	0	0	315,791	53,464	11,852,205	339,505
II 経常費用											
(1) 人件費											
給料手当・日当					300,000				290,000	516,000	
人件費計	0	0	0	0	300,000	0	0	0	290,000	516,000	0
(2) その他経費											
業務委託費					37,464	503,259				1,308,000	
支援金										1,261,845	
印刷製本費					147,350		235,935	100		1,170,530	
諸謝金								52,274	8,454		
会議費								33,612	2,346	88,408	
旅費交通費				3,540	347,500			130,820	677,125	2,262,383	
通信費				15,114			98,214	6,408		3,120	
荷造運搬費				69,500			361,205			9,240	
消耗品費				8,712				44,811		7,181	
修繕費											
地代家賃										1,140,000	
水道光熱費										113,204	
貸借料								45,800			
減価償却費										1,477,361	
新聞図書費										6,000	
保険料											150,000
租税公課											
支払手数料	3,315	6,654	10,677	105	720			525	630	30,753	700
雑費					2,500			26,591		214,628	
為替差損	27,835	12,931	18,011		140	141			5,386		
その他経費計	881,150	414,485	1,120,030	96,971	535,674	503,400	695,354	340,941	693,941	9,092,653	150,700
経常費用計	881,150	414,485	1,120,030	96,971	835,674	503,400	695,354	340,941	983,941	9,608,653	150,700
当期経常増減額	△ 881,150	△ 75,685	△ 905,730	△ 96,971	△ 821,674	△ 503,400	△ 695,354	△ 25,150	△ 930,477	2,243,552	188,805

第15期(2013年4月1日～2014年3月31日)の会計報告を監査した結果、異状なく正当に処理されていることを証明します。

2014年(平成26年) 5月 23日 監査人 神野美知江

2013年度は10月以降コンパインキャンペーンを展開したこともあり、1千万円以上の寄付金が集まりました！そのうち431万円がコンパインキャンペーンの寄付金です。ご支援くださった皆様、本当にありがとうございました。収益の合計は19026千円となりました。それに対し費用合計は19027千円で、収支差額はマイナス598円です。一見、収益で費用がほぼまかなえているように見えますが、収益のうちコンパインキャンペーンの寄付金は、南相馬農地再生協議会への支援金として2014年度に贈呈しますので、実状は431万円分赤字であるともいえます。2014年度においては資金的に厳しい状況になってくると言わざるを得ません。活動が活発な福島支援事業については、助成金や寄付金、また事業収益などもあり、事業別の収支では黒字となっています。一方、ウクライナの支援事業については、ほぼ毎年同じように支出していますが、寄付金の額も支出に対してかなり少なく、助成金もないため、資金獲得は難しい状況となっており、医療機関支援事業と被災者団体支援事業を合わせると、1786千円の赤字を抱えています。今後は、ウクライナの支援についても資金獲得の方法を考えていく必要がありそうです。

啓発事業については、本の販売収益で339千円あり、事業別収支では188千円の黒字となっています。各地での講演会やイベント参加時、またとどけ島においても、書籍販売が活動資金の助けになっています。2013年度も皆様のご支援とご協力により充実した活動ができましたことを感謝申し上げますとともに、2014年度についても一層充実したものにしていくためにも、資金獲得、経費節約に努めてまいります(兼松真梨子)

事務局便り

事務所は、6月1日に開催される「マツリゴト day」の準備で、このところ賑わっている。チェル救メンバーはもとより、様々な活動に関っている人達が入り出して活気がある。いろいろな「空気」を運んでくれるのが、なんと新鮮。「マツリゴト day」の成功を願いながらの作業だ。—この時期恒例、1年分の資料と格闘?!しながら事業報告を書いているが、心そわそわ気はそぞろ、たくさんの人々が集まってくるであろう day を夢想して落ち着かない。—心そわそわではないが、強く心打たれた事に、大飯原発差止訴訟判決がある。判決文はまごうこと無き真実を明記し格調高く、大きな希望を喚起し、司法のあるべき姿を顕在させた。「関西電力大飯原発3号機、4号機は運転をしてはならない」「人格権は・・・我が国の法制下において、これを越える価値を他に見出すことはできない」歴史に耐える判決文というべきか。原発再稼働はありえない。(山盛)

野馬追タオル 限定販売中 !!

「相馬野馬追」の「神旗争奪戦」で、打ち上げられる各神社の御神旗の色(青・赤・黄)です。開催年月日(今年は7月26~28日)入りの現地限定タオル、チェル救で入手できます。福島支援の思いを込めてぜひ一枚!(1,500円/枚)

「神旗争奪戦」とは…野馬追神事の本祭りで行われる神事です。雲雀ヶ原の空に打ち上げられた花火の中から、ゆっくり落ちてくる御神旗を、500余騎の騎馬武者たちで争奪する行事。御神旗を勝ち取った騎馬武者は高々と御神旗を掲げ、羊腸の坂を本陣山山頂に向けて一気に駆け上がります。旗は敵の首になぞらえてあり、御本陣では旗軍者に審査され、騎馬武者は妙見神社から御札と副賞を受けて山を下ります。花火は計20発(御神旗は計40本)が打ち上げられ、御神旗の色は、「青は相馬中村神社」「赤は相馬太田神社」「黄は相馬小高神社」を表しています。(美)



編集後記

☆ネット通販の落とし穴は「5,000円以上で送料無料!」のうたい文句。「無料」の誘惑にひたすら耐え、必要な数だけをクリック。そして送料の高さに悲しさがこみあげる。私って小さい!(佳)

☆今よりも22才は若かった普通の諸兄姉達が、チェルノブイリ原発事故の被災者のために「何かできることを!」と始めた支援活動は、ウクライナの人々との大切な絆。絵画展も文通もX'masカードも普通の人々が考えた心の支援です。ニーナさんの手紙は、普通の人の日常生活が書かれています。今、思い出さなきゃいけないのは、22年前にはもう警鐘が鳴らされていたということです。(美)

☆「美味しんぼ」の鼻血描写に怒る、福島の若者達がいる。「復興を願い、毎日を懸命に生きる僕達を、再び不安な生活に突き落とすな」という切実な声だ。一方で、「美味しんぼ」をバッシングする人間達に、抗議の声を上げる母親達がいる。「安全に疎開できるよう手助けもしない」「安心して暮らせる処置も講じない」、ひたすら「大丈夫」を繰り返し、情報を隠蔽する政府(原子カムラ)に対する激しい怒りだ。どちらも、社会から見捨てられ、「病気」や「差別」という不安を抱く中で、平穏な日々を取り戻したいという心の叫びだ。そもそも、2011年から2012年にかけての国会で、「鼻血が多い」という事実をつきつけ、質問・追及していたのは、森・山谷・熊谷・長谷川等、当時野党だった自民党の議員達である。鼻血問題が「風評」でないことは、現自民党政権が一番よく知っている。(J)

〒456-0022 名古屋市熱田区波寄町 20-14

印刷「エープリント」

TEL・FAX (052) 871-9473